

(博士前期課程) 建築・都市デザイン工学専攻【都市デザイン工学コース】 アドミッション・ポリシー

研究科・専攻ポリシー

都市および地域を対象に、自然環境と調和し共生できる安全・便利・快適な人間活動環境の創造に必要な社会基盤施設ならびにそのシステムの整備や維持管理にかかわる学理と技術を、建築学を含む柔軟で幅広い視野で学びかつ深く考え研究することに情熱を有し、持続可能な社会の発展に貢献するデザイナー、プランナー、エンジニアを養成する。

<求める人物像>

- 都市デザイン工学の高度な専門知識と技術を習得し、深く考え研究するために必要な基礎的知識を有している人
- 都市デザイン工学に関する研究や開発を主導する高度な技術者や研究者をめざし、新たな知識や技術の創造に向けての思考力、洞察力、行動力を有している人
- 専門分野を基礎とし、倫理観と責任感のある高度技術者、研究者として持続可能な社会の形成に生涯を通じて貢献する意欲のある人

入学前に学修しておくことが期待される内容

都市デザイン工学における高度な専門知識と技術を発展させるための、都市デザイン工学の専門領域の体系的理解と技術、および広い視野にもとづいた判断力の修得を求めている。また、科学技術の社会的貢献と地球環境への影響を理解し、自己実現と自己責任を持った自立できる技術者としての素養と、社会の変化に対応して学び続けようとする姿勢も求めている。加えて、都市デザイン工学のグローバル化に対応し、専門的な知識や技術を用いた論理的な思考にもとづいたコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の修得も求めている。

学内進学選考

- 面接試問では、これまで学んできた都市デザイン工学の専門分野に関する基礎的な内容についての理解と、入学後に学修を希望する専門分野に関する知識と姿勢について評価する。また、専門分野と合わせて広く多くの考え方を知り、大学院修了後について積極的に明確な目的を持つと同時に、これを実現しようとする姿勢が望まれる。
- 幅広く学ぶ学理と研究におけるグローバル化に対応した英語力について、TOEIC 成績をもとに評価する。専門的な内容について学び、コミュニケーション力を学ぶ基礎力と、積極的な学びの姿勢が必要となる。また、選考後もこの姿勢を継続することが望ましい。

一般入試

- 学科試験では、都市デザイン工学の基礎学力専門試験として、「景観工学」「計画学」「構造力学」「建設材料学・鉄筋コンクリート工学」「土質力学」「水理学」の6つの分野から3つの科目を選択（ただし、大学院研究指導教員が専門とする科目は必ず選択）して解答する。選択する科目は、自ら専修する分野や研究内容に近い科目を選ぶことが望ましい。なお、専門試験で選択しなかった分野についても、学士課程で学んだ広範な知識として、事前に再度復習を行い、知識の積極的な定着を図る必要がある。

- 英語は、TOEIC テストで評価する（ただし、オンライン受験による点数は受け付けない）。グローバル化を見据え、専門的な内容についてコミュニケーションするための能力、またはこれを学ぶための基礎力と、積極的な学びの姿勢が求められる。選考後においてもこの姿勢を継続的に維持することが望ましい。
- これまで学んできた基礎学力と専門に関する学力については、上記の試験とともに論理的な考え方、専門知識と幅広い見方を問う論述試験を行う。これらと調査書、成績証明書等に関する審査と面接試問の結果で総合的に評価する。専門分野の知識と合わせて、多くの考え方を知り、大学院における学びについて積極的な姿勢と明確な目的を持つことが望まれる。

社会人入試

- 受験時までの成績証明書、業績書、出願書等による審査と面接試問の結果で総合的に評価する。社会人として、再び学ぶことに対する考え方、姿勢を明確に表現できると同時に、その根拠と自己の立場および置かれた環境などについて理解し説明できることが必要である。
- グローバル化に対応して、専門知識の修得と研究に必要な英語力を継続的に学ぶための基礎力と、TOEIC テストを継続して受験するなど今後につながるための積極的な姿勢が必要となる。
- 学科試験を課していないため、大学院入学までに専門に関する基礎的分野と専修予定分野について自修しておくことが必要である。

外国人留学生入試

- 学科試験として専門分野に関する試験、加えて成績証明書等と面接試問の結果で総合的に評価する。これまで学んだ専門分野について、事前に学修しておくことが必要となる。また、日本語文献の読解と日常会話が可能な日本語能力が必要である。
- 選考後においては、専門分野の学修に必要な日本語能力の修得について、継続的に学ぶ必要がある。